

05 モラルの確立に向けた 学校教育のあり方について（教委）

ここ最近、情報モラル、情報モラル教育について、数多くの論文・論説・記述が見受けられます。SNSが益々隆盛する今日、情報モラルもその根本はモラルであり、モラルを確立する意義、重要性は一層高まっているように感じています。

ルールはブレーキ、モラルはハンドル。モラルは公德心や礼儀など当たり前の規範意識たるマナーよりも広く、自分自身の生き方をコントロールしています。モラルの確立は、人間として社会参画するための条件、自分の「生き方」の扉を開くことにつながります。

自分が属している集団や社会を意識し、その中でよりよく過ごすにはどうしたらよいのか、人との中でよりよい人間関係をどうすれば良いのかを考え、自分が属している集団や社会の中でより良い人間関係を維持していくことが大切です。そして、その関係を向上させようとする、高い規範意識（モラルの確立）を持つことにより、みんなと共によりよく生きようとする社会参画への意欲や態度を育てることが必要です。「モラル」とは、別の角度で見ると個人や社会の危機を顕在化させないための仕組みであると言えます。

モラルとは、そもそも論理的に「理解」するものではなく、「了解」するものである。従って、その人が分かる範囲でしかモラルは存在しない。ということは、逆に言えば、誰でも自分が了解できる範囲のモラルを持っているということになります。

従って、当人はしっかりモラルを持っているという自覚をしていたとしても、周囲や社会から客観的に見たときに、限りなくないに等しいくらい低いレベルから極めて高いレベルに至るまで千差万別という様相を呈します。

そして、各人のモラルレベルを調和させられないときには、社会の危機が顕在化します。それは結果として、高いモラルがその社会で機能していないことを意味しており、モラル意識の欠如としてもたらされるものが、いわゆる不祥事であります。

学校におけるモラルの確立に向けた授業というのは、一義的には授業を受ける生徒に影響を与えますが、日々モラルについて教える側の教員や、PTA・保護者への波及も考えられることから、学校あげての取組が非常に重要です。



兵庫県立北須磨高等学校



兵庫県立神戸商業高等学校

世田谷区の教育委員会では、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、全ての区立学校における道徳教育の一環として、全区立学校で共通に定めた月ごとのテーマ（たとえば5月は「思いやり」）について、各学校の児童・生徒が日頃の自分自身を振り返り、よく考え、行動する取組であります。取組の中心は学校であります。家庭や地域とともに進め、世田谷区全体の取組となるよう努力されています。

本県においても、第3期「ひょうご教育創造プラン」の基本理念に「兵庫が育む 心豊かで自立する人づくり」を掲げ、児童生徒に対する道徳教育の推進を図られていますが、学校・家庭・地域が連携した「モラル」の確立を今後どのように進めていこうとされているのか、ご所見を伺います。

答弁：西上教育長

モラルを規範と捉えますと、人が互いを尊重し、協働して、よりよい社会を築き、生活していく上で、必要なものでございます。規範は普遍な面と、成長から成熟の時代、量から質といった価値観の変化に応じて変わる面もございます。近年の情報技術の発展・グローバル化は、私たちの身近な社会に、これまでにない、様々な価値観を持つ人々と出会う機会をもたらしています。このことは世界で守られている規範が多岐多様であることを知ることにもなります。そして、情報を活用するための規範も重要となっていることを認識させています。今の子ども達が、将来こうした社会に生きていくためには、自らのアイデンティティ、あえて、ふるさと意識と申し上げますが、アイデンティティを持ちながら、異なる文化や価値観を持つ多様な人々と共生する力が求められてまいります。

本県の第3期ひょうご教育創造プランは共生する力の育成を明確にし、学校におきまして、道徳教育はもとより、心の教育から生まれました、多様な体験活動など教育活動全体で取り組むこととしております。

具体的には、児童生徒の成長段階に応じまして、一つとしては、自然学校やトライやる・ウィーク等を通じて身近な集団活動でのきまりや働く人の願い、価値観を体感すること、二つとして、世界的に活躍する人々の話の中から、グローバルな考え方に触れること、そして、三つ目としましては、国際交流活動等により、異なる文化や多様な価値観に直接出会い、理解していく活動等を行っております。

そして、規範意識を醸成するためには、学校だけでなく、家庭・地域の取組も重要でございます。引き続き連携を強化してまいります。

今後とも、様々な教育活動を通じて規範意識の醸成に引き続き取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

我が自民党議員団といたしましては、政治の光が当たらないところにしっかり光を当てていく、知事と同じ思いで、我が議員団もしっかりとやっていくことを誓いまして、この質問を終わらせていただきます。



よっしープレスは、垂水の「よっしー」こと、
兵庫県議会議員
吉岡 たけしの報告紙です。
くらし満足度No.1の垂水を目指して、
神戸市垂水区と兵庫県政をつなぐことを
目的に、兵庫県の政治を分かりやすく
伝えます。



兵庫県議会 自民党 議員団

- プロフィール
- 1962年10月13日生まれ
 - 灘中学・高校卒
 - 早稲田大学法学部卒
 - アンリツ(株) 官公営業部
 - 千代田火災海上保険(株)
 - 横浜支店・神戸支店
 - 衆議院議員 秘書
 - 参議院議員 政策担当秘書
 - 2015年 兵庫県議会議員選挙初当選
 - 警察常任委員会委員、
産業労働常任委員会委員、
建設常任委員会委員
 - 自民党県議団 政務調査副会長
 - 警察常任委員会副委員長
 - 2019年 2期目当選(17,392票)
 - 総務常任委員会副委員長

01 「よっしーのはなし」をいたします。
負担を押し付けない県政を実現させます。

神戸市と兵庫県。2重行政をなくして、効率的な行政の推進を進めています。益々、事業の選択と集中を本格化させて、引き続き新たな改革マインドで、将来に負担を押し付けない県政を実現させたい!!どこよりも夢叶う兵庫の実現に向けて頑張ります。垂水区内各地で(街頭、ミニ集会等)県政報告をいたします。

02 ご意見・ご相談等については下記までご連絡ください。

兵庫県議会議員 吉岡たけし事務所
〒655-0034 神戸市垂水区仲田1-8-24-101

TEL：078-708-8600 FAX：078-708-8610

発行日：2021年3月22日 兵庫県議会の様子をインターネットでご覧いただけます。
発行元：兵庫県議会議員 吉岡たけし事務所 <http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/index.html>

インターネット放映中 本会議の代表質疑・委員会での質問などが手軽にご覧になれます。

https://yoshioka-takeshi.com

「天保の改革」当時の日本の人口は約3300万人。 その内の125万人が5年で失われたという 天保の飢饉を受けての幕政改革でした。

令和3年もはや、3月、本日は3月2日、「遠山金さんの日」との事です。時は、天保11年、1840年、従五位下 遠山 左衛門尉 景元卿が江戸の北町奉行に任じられた日だそうであります。東京都知事 兼 警視總監 兼 東京地裁判事といったお役目です。もう百年程遡った大岡越前守忠相卿には大岡裁きの逸話が数多あるのに対し、遠山景元卿には12代将軍家慶公による「公事上臆」の折の激賞エピソードぐらいいしか残されていません。しかし、景元卿は往時から今に至るまで遠山金四郎様、遠山の金さんとして、芝居や劇の寵児であり続けています。それは何故か？



「遠山の金さん 天保の改革に異議あり!!」
- 英雄たちの選択 - NHK

芝居小屋廃止を押しとどめ、移転に留めた。寄席の全廃も阻止。株仲間の解散令を町中に流さなかった。町人への奢侈を禁止しながら武士には適用しないのはダブルスタンダードだと指摘する伺書を老中首座水野忠邦卿に提出し、町人に対しての細か過ぎる各禁止令の緩和を求めた。天保の改革に際して、当時の庶民町民へ禁止につぐ禁止で縛ろうとする最高権力者水野忠邦卿に対して、目線を庶民町民に合わせた政策を実行するとして譲らなかった稀有の為政者遠山景元卿。凡そ180年の時空を超えて、住民の皆さんと目線を合わせた政策の実行こそが肝要であるとし、そこは譲れないという景元卿の強い想いを我が胸にしっかりと刻みつつ、以下5項目、一括方式にて質疑・質問をさせていただきます。

よっしー PRESS

令和3年 第2号

よっしープレス
Vol.09 / March 2021

CONTENTS

第353回定例会一般質問(令和3年2月)

03 災害対応におけるSNS情報収集システムの
更なる活用強化について(防災)

04 ゲノム育種等を活用した神戸ビーフの
ブランド力強化について(農政環境)

05 モラルの確立に向けた
学校教育のあり方について(教委)

質問01・質問02は
「よっしー PRESS 08号」に掲載

県政

09



03 災害対応におけるSNS情報収集システムの更なる活用強化について（防災）

スマートフォンの普及とSNSの利用が一気に伸長した結果、誰もが様々な情報を公に発信することのできる世の中になりました。災害が発生した折には、被災状況を即座にスマートフォンで記録した動画等が数多くアップされ、メディアでも取材班による取材動画より前にこれらが紹介されることも今や珍しくありません。

災害に関する情報を自治体がフェイスブックやツイッターなどのSNS上で収集しようとする取組は、情報発信にSNSを活用する取組に比べるとまだまだ実際に運用されている比率は未だ少ないものの、着実に広がりを見えています。

自治体にサービスを提供した実績を持つ、ある防災・危機管理ベンチャー企業が、昨年5月にわが国の自治体で防災・災害対策に関連する業務従事者を対象に、インターネットを通じて「災害発生時の情報収集」に関する調査を実施したところ、全体の8割以上の方が「災害時のSNS情報に有用性を感じる」と回答しました。関係省庁や消防・警察よりも早く情報が得られるSNSに有用性を感じる方は多いようです。

また、調査結果によると、災害発生時の情報として、ある程度被害の実態が判明してからは関係省庁や消防・警察の情報をもとに動いている一方、まだ見えていない被害などの情報をいち早く把握するために、SNSなどの情報も重視している様子が伺えました。

さらに、災害発生時における情報収集の課題として、『リアルタイムでの災害状況の把握（47.4%）』『情報収集手段の不足（22.0%）』『情報の真偽や正確性の確認（19.4%）』などがあり、意見として「発生直後の正確な状況がわからないため、災害対応に活用しにくい」「デマに惑わされてしまうことがある」などが挙げられていました。

こうした中、神戸市は、同市の災害・危機管理対応として、防災・危機管理ベンチャー企業の提供するAIリアルタイム危機管理情報サービスを正式採用したと昨年8月に公表されたところです。他の都道府県・市町でも同様のシステムを活用した取組が進められているところですが、神戸市だけでなく、県下全市町が全域で正しく情報収集を行えてこそ、県民の安全・安心が担保されることとなります。

県としても、AIを活用してツイッターやフェイスブック



兵庫県防災センター内部

などのSNSに投稿された情報からデマやフェイクニュースを排除して、緊急性の高い生の災害情報をリアルタイムに解析・抽出できるシステムをこの度の当初予算で導入する運びとなることは、令和2年度2月経済対策補正で、消防団員等が災害現場で収集したスマホやドローン等の動画・写真をスマホの簡単な操作でフェニックス防災システムの機能として電子地図上に自動で表示・整理する遠隔情報共有システム（Hec-Eye）の整備とともに、災害対策の初動において大いなる前進をもたらすものと期待しています。

ツイッターやフェイスブックにも動画や写真はもちろんアップできるからこそ、消防団員も急行できないような万一の大災害の折に、災害発生現場からの住民等の皆様のSNS情報からAIによる解析・抽出情報を県・市町・警察・消防等で共有できる体制の整備にまで、進めていく必要があると考えますが、当局のご所見を伺います。



フェニックス
防災システム



ひょうご防災
ネット

兵庫県のアプリです

答弁：早金防災監

災害時の初動対応には、被害情報の迅速かつ的確な把握が不可欠で、被災者等が発信するSNS情報は、現場の状況を知る上で有用です。

本県では、災害時の人的・物的被害情報、必要物資量の推計等を、県、市町、防災関係機関が共有する「フェニックス防災システム」を運用しています。このシステムには、SNSの一つ「ツイッター」に投稿された災害情報を「冠水」や「建物倒壊」といったキーワードで抽出する機能もあります。この機能を活用して、災害発生時に被災情報を確認し、対応の参考としております。例えば、昨年12月、降雪による県北部での大規模停電の際、抽出したツイッター情報により現地の状況をいち早く把握し、関係機関との連絡調整に役立てました。

しかしながら、この情報収集先がSNSのうちツイッターのみであること、また、投稿にはデマや不正確な情報が含まれる恐れがあることから、来年度、システムの機能を強化することとしております。ひとつは、ツイッターに加えまして、ユーチューブ、フェイスブック、インスタグラムなど、より多くのSNSの情報を収集することとします。また、AIを活用しまして、緊急性・信憑性の高い情報を効率的に抽出できるようにします。そして、抽出した情報は、フェニックス防災システムを介して市町・防災関係機関と共有し、より迅速な対応につなげてまいります。

また、ご紹介いただきましたとおり、消防団員等が災害現場で撮影した動画や写真を地図上に集約・共有する「遠隔情報共有システム（Hec-Eye）」を整備いたします。これらの新たな機能を、県・市町職員が初動時に円滑に使いこなせるように、これまで以上に研修・訓練を重ねてまいります。

今後とも、迅速かつ的確な情報収集を図り、市町・防災関係機関とともに、災害対応に万全を期してまいります。引き続き、よろしく願いいたします。

04 ゲノム育種等を活用した神戸ビーフのブランド力強化について（農政環境）

全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う「全国和牛能力共進会」の2017年に宮城県で開催された前回大会において、鳥取県の牛が、肉質を審査する肉牛部門、いわゆる「花の7区」で初めて全国1位に輝きました。このチャンピオンと同じDNAを持つ子牛が成牛になった際の産肉能力の高さが圧倒的と群を抜くことから、全国の農家から鳥取へ引き合いが殺到しています。

鳥取県は「ゲノム育種価の結果が出た」と分析しており、全国の肉牛関係者の見立ても同様です。鳥取県では、他県に先駆けて2012年からこうしたゲノム育種価の解析を進め、どの牛を繁殖用として残していくかの判定基準にしてきました。

こうした動きは、もちろん鳥取県がフロントランナーであることは間違いない事実ですが、他の道県も同じくゲノム育種解析を導入し、懸命に追い付こうと努力しているところでもあります。

兵庫県でもゲノム解析の研究については、北部農業技術センターにおいて既に着手しているところですが、本県の但馬牛は、全国でも唯一県外から種牛を導入しない閉鎖育種という手法をとっており、大多数が県内肥育され、育種価推定に必要なデータがほぼ集まっていることから、本県では従来の育種の精度は極めて高く、種雄候補牛の早期選抜など特殊な場面以外ではゲノム育種価を活用した改良の場面がないとセンターでは主張されています。ただし、そのことに関しては、鳥取県でも従来の育種の精度はそもそも9割以上であった訳であり、兵庫県においてもゲノム育種価によって思わぬ高い能力の種牛の発見にもつながるなど、ゲノム育種の活用の場面は大いにあると指摘する獣医や専門家の話を私自身は実際に耳にしています。

また、但馬牛の場合、閉鎖育種を行っているが故に、遺伝的多様性が失われる危険性があり、育種上極めて大きな問題となることから、閉鎖育種を継続しながら、ゲノム情報の主成分分析により、現在の但馬牛集団の多様性維持に効果の高い系統や個体を選ぶ良い手法を確立し、今後これらの情報をもとに種雄牛造成及び雌牛の保留を行うことで、遺伝的多様性を担保していくべきと考えます。

さらに、種雄牛や繁殖雌牛が遺伝的不良形質を発症させる変異遺伝子を持っていれば、子へ遺伝してその子牛



が死ぬという経済的損失を受ける可能性があります。ゲノム情報を活用して、不良形質を発症させる遺伝子を予め特定、排除することが可能となることから、その原因遺伝子の特定を急ぎ進めるべきであり、これにより子牛の死亡事故防止や受胎率向上などを図ることで、繁殖農家の経済的な損失の可能性を防ぎ、兵庫県の畜産に大いなる希望の光をもたらして頂きたいと思います。センター等の技術職員の技術力向上にもつながります。

現在、神戸ビーフのブランド力ありがたいことに日本一、そして世界でも有数にありますが、守勢に立っていは、その名声は守れないと思います。

様々な観点から、最新の科学的分析ほか有用なデータ・知見やゲノム育種等を活用した神戸ビーフの更なるブランド力強化について、ご所見を伺う。



神戸ビーフ館
(新神戸 オープ内)

答弁：井戸敏三知事

本県は、閉鎖育種を大原則にし、県外から種牛を導入しない純血血統による育種により、遺伝的多様性も確保しながら、枝肉重量や脂肪交雑等の産肉性に加えて、モノ不飽和脂肪酸等のおいしさの指標を用い改良を進めてきました。この結果、但馬牛・神戸ビーフは世界のトップブランドとなっています。

但馬牛の改良については、明治30年頃から村役場に整備されてきました牛籍簿など蓄積された豊富な血統情報や数世代にわたる枝肉成績に基づく産肉能力を数値化した「育種価」により、種牛を選抜してきています。

一方、「ゲノム育種」は、個々の牛が持っている、全ての遺伝情報「ゲノム」を数値化するものであり、数世代を検査しなくても、当該牛のみで能力が推定できることから、ゲノム情報を蓄積し活用することで、改良の精度とスピードの向上が期待できると言われています。

ゲノム情報の蓄積には多額の費用がかかりますので、現在、北部農業技術センターでは、国が行っている和牛のゲノムデータベース化と連携して、但馬牛のゲノム情報の蓄積を進めており、先行して特定の遺伝子の欠損などで発症する遺伝病の排除に活用しています。

今後は、本県但馬牛の改良にゲノム育種の手法も取り入れ、改良の精度とスピードを向上させます。次いで、但馬牛の血統が将来にわたり維持可能となる遺伝的多様性の確保を進めて、産肉能力の向上を図ってまいります。あわせて、3つに虚弱子牛や不受胎などの生産性を阻害する遺伝子の解明や排除も進めてまいります。これらを行ってまいりまして、繁殖農家の収益拡大にもつなげていきます。

これらゲノム育種を活用した取組を一層進め、但馬牛・神戸ビーフをさらにゆるぎないブランドに育て上げ強化してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。